

自治体名	三重県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

三重県では女性特有のがんに対して重点的に取り組んでおり、乳がん検診の体験など受診率の向上に向けた取組をはじめ、早期発見、早期治療に向けた取組を行っている。また、思春期の世代への健康教育を通じて子宮頸がんの予防についても普及啓発を実施している。

少子高齢化が進む社会の中で、思春期から出産・育児期間を経て更年期、老年期を通して一貫した女性の健康対策が重要になると思われる。

三重県では、各関係機関と連携して各年代に対して健康教育や健康相談を実施し、女性の健康に関わる情報提供や啓発などを展開する。

自治体の特徴

日本列島のほぼ中央、紀伊半島の東部に位置。県土は細長く中央構造線によって、大きく北側の内帯地域と南側の外帯地域に分けられる。伊勢志摩をはじめ県土の約3分の1以上を自然公園区域が占めている。気候風土も穏やかで伊勢神宮に代表される伝統ある文化・歴史を育み、東西の結節点として自然・社会経済的条件を活かし発展してきた。

人口構成・(H21.10.1現在)

	総数	男	女
人	1,862,575	906,958	955,617
割合(%)	100	48.7	51.3

15歳未満	256,995	131,113	125,882
15～64歳	1,160,947	584,490	576,457
65歳以上	442,313	189,827	252,486
75歳以上	216,272	82,545	133,727
85歳以上	57,342	14,565	42,777

女性に関する健康課題

- ・ 中学3年生(14歳)女生徒で体重が標準の-20%以下の割合が増加している。
三重県 H13 2.04% → H20 2.89%
- ・ 十代の人工妊娠中絶実施率は平成14年(県15.4)をピークに低下しているが、全国平均に比べて高い状態が続いている。 H20 全国7.6 三重県9.4(人口千対) H19 全国7.8 三重県8.8(人口千対)
- ・ 妊娠中の喫煙率 三重県 H13 4.8% → H20 3.9%
- ・ 乳がん検診、子宮がん検診の受診率は全国平均に比べて低く推移している。
乳がん検診 H20 全国14.7 三重県14.6 H19 全国14.2 三重県13.4
子宮がん検診 H20 全国19.4 三重県18 H19 全国18.8 三重県14.3

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	881
(2) 中高年期における健康支援事業	2,587
(3) 女性のがん支援事業	4,615
計	8,083

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	思春期の女性の健康づくり事業
分野	■健康教育 ■健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	300

事業目的

自分が望まれて生まれ、家族の温かい見守りによって育ってきたことを実感すること、性に関する正しい知識を持ち、NOと言える行動が取れる児童生徒を育成すること、思春期を迎える時期に、自己肯定感を高く持ち、自己主張できる児童生徒を育成すること、一人ひとりの女性として主体的に自らの健康に目を向け、主体的に健康づくりを実践していこうとする意識を高めることを目的に事業を実施する。

事業対象

三重県多気郡大台町内の小学6年生と中学生及び1歳未満児とその母親

事業実施体制・展開

- ① 関係団体は、町内の4小学校(142名)・3中学校(125名)と、教育委員会、講師は助産師。
- ② 各学校単位で、担任・養護教諭・保健師が講演の前後に内容等について協議し、助産師に伝え、目的が達成できる講演内容を依頼する。
 - (ア) 小学6年生
 - 1学期)・生命の誕生を知る。男の子と女の子の体の違いを知る。自分が生まれてきたときを振り返る。自分自身を大切にする気持ちを高める。また、他人を思いやる気持ちを高める。講演「いのちって大切なもの」
 - 3学期)・第二性徴を知る。男の子と女の子の体の違いを知る。成長の違いを知り、個性を認め、自分自身を大切にするとともに、他人に対しても思いやりの心をもてる意識を高める。講演「男の子って、女の子って」
 - (イ) 中学1年生 思春期のこころと体の変化を学び、いのちの大切さについて考える。講演「第二性徴」
 - 中学2年生 異性に対する認識を深め、互いを尊重し思いやる気持ちを育てるため、人とのかかわりについて考える。講演「性交・妊娠・出産」
 - 中学3年生 自分らしく生きるため、将来の人生設計をすることで自分の生き方について考え、今後自立に向けてどう行動すべきか考える。講演「避妊・中絶・性感染症」
- ③ 担任と養護教諭は、講演の前後に授業を行い、助産師の講演内容が児童・生徒に理解できるようにする。
- ④ 月経記録ノートを配布し、自分の健康記録として経年的に記録し、保管していくように説明する。
- ⑤ 児童・生徒の保護者には、学校から内容等を伝えていく。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 児童へのアンケート調査：いのちの大切さの理解 96%、親への感謝 88%、自分自身の健康管理の大切さの理解 82%、月経ノートの今後の活用 85%
- ② 保護者への調査：子どもとの会話の大切さの認識 89%、子どもが自分自身で健康管理ができることの大切さの認識 86%、親子のふれあいの機会への喜び 95%
- ③ 学校関係者のアンケート調査：講演の有効性あり 100%、講演内容の授業への取り入れ 88%
- ④ 担任や養護教諭による事後学習会（いのちの大切さの理解と2次性徴等について）の実施率 100%
- ⑤ 1歳未満児の母親への調査：小学生との交流の機会への喜び 100%、地域への関わりへの喜び 80%

事業の工夫点

学校の担任や養護教諭と連絡を密にして、助産師の講演だけでなく、その前後の方針を共有しておくことで、特に小学6年生は年間2回の講演を意義あるものにしていくように工夫している。

赤ちゃんを持つ保護者への連絡等は、保健師が責任を持って、保護者へのお礼等は学校側が感謝の気持ちを込めてというように、細かい部分の役割分担を明確にしておくことで、混乱が生じないような配慮を行なっている。

事業の効果についての評価・考察

評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業の効果について検討した。

- ①学校と連携して講演を行うことによって、児童・生徒への健康づくりに関する意識の共有が容易に図れ、町の養護部会に参加し、歯科保健や感染症などについても意見交換をするなどになってきている。担任や養護教諭の講演やふれあいに対する評価は高く、次年度以降も思春期の女性の健康づくりを推進していく方向となり、関係機関の間でさらなる協力関係が築かれたと考察する。
- ②思春期を迎える前の時期に親子で「いのち」に対する話し合う機会を持つことによって、自尊感情の向上が図れると共に、自分自身を大切に、周りに対しても大切にしていかなければという意識を待つきっかけとなっている。
- ③地域の赤ちゃんを持つ母親に参加してもらうことで、20～30歳代の女性の地域に貢献するという意識を育て、自分自身の存在価値を知っていただく機会となっている。
- ④今後は、講演内容に子宮頸がんワクチンや20歳からの検診受診の必要性を啓発していくことにより、受診率向上の効果が期待できる。そして、20歳の時期に、月経記録ノートの活用等についてアンケート調査を実施しその際に再度検診等の普及啓発を行うことで、自分自身の健康づくりに対して意識づけをする効果が期待できる。

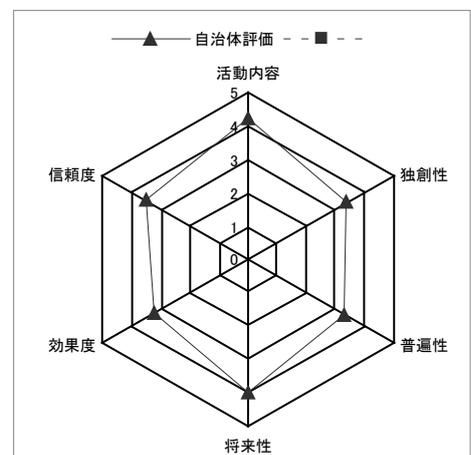
今後の課題

小学6年生から中学生にかけて得た知識や、意識を成人期まで継続していくための啓発方法を今後検討していかなければならない。また、地域の住民に対して、学校の取組を周知していくことも大切である。

20～30歳代の赤ちゃんを持つ母親に対しては、母子保健事業を実施していく中でがん検診などを啓発普及していくことは可能であるが、単身者に対しての周知方法等を今後検討していく必要がある。

ホームページ	http://www.odaitown.jp/
照会先	三重県 大台町役場 健康ほけん課 0598 - 82 - 3785

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	地域密着型の事業である。関係機関との協力関係が良かった。教育と保健の連携ができています。
②独創性	3.4	学習指導要領をふまえている。従来からの思春期教育の型である。
③普遍性	3.3	人口規模が小さくマンパワーがあったことで実施できた。
④将来性	4.0	地域と学校のコラボレーションという意味で良い。是非積極的な継続を望む。
⑤効果度	3.2	兄弟がいない子にとって赤ちゃんを抱くことのインパクトはある。
⑥信頼度	3.5	講義前後での評価が無く信頼度は高くはないと考える。工夫が必要。成人式での評価はとても良い。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	壮年期女性の尿失禁改善事業
分野	■知識の提供 ■健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	595

事業目的

壮年期女性の4～6割は、尿失禁経験者といわれ、出産経験や肥満、加齢による骨盤底筋力の低下などが、尿失禁を引き起こす原因となっていることを情報提供し、失禁について地域への啓蒙を図る。また、尿失禁は一般女性の誰にでも起こり得る症状であることを、悩んでいる住民に伝え、尿失禁を改善してQOLを改善するきっかけとしてもらう。

事業対象

三重県内の壮年期女性 合計100名程度

事業実施体制・展開

1. 三重県健康福祉部、菟野町保健福祉支援センター、桑名市中央保健センター、三重大学医学部看護学科の共同で実施する。
2. 講義と運動指導の展開
 内容：①尿もれのしくみと対処の方法 ②骨盤底筋体操
 運営：各センターの保健師 講師： 三重大学看護学科教員
 開催日と場所：1月24日（保健福祉センターけやき）、2月20日（桑名市中央保健センター）
3. 尿もれ相談会の開催（相談対応者：三重大学看護学科教員）
 対象者：三重県内の壮年期女性 合計20名程度
 日時・会場：1月27日・2月1日（保健福祉センターけやき）
 2月20日（桑名市中央保健センター）
 相談内容：気持ちを聴いて欲しい、尿失禁のアセスメント方法が知りたい、医療機関を紹介して欲しい、尿失禁による皮膚障害の予防法が知りたい、適切な下着やパッドが知りたい、受診の時にされることを知りたい、その他、尿失禁でお困りのことや心配なこと

事業目標・評価項目 及び その結果

1. 講習会の参加者数： 合計176人。予定よりも大幅に多く、対応に苦慮するほどであった。
2. 参加者の尿失禁にかかわる状態： 排尿状態の良い参加者の方が少なく、問題を抱えている参加者が多かった。頻尿状態の参加者は100人（57%）、夜間排尿のある人は114人（65%）、尿意切迫感のある人は92人（57%）、尿失禁のある人は101人（58%）、切迫性尿失禁のある人は83人（47%）、腹圧性尿失禁のある人は102人（58%）であった。
3. 参加者の満足度：参加者が、相談にのって欲しいと思う場所は、保健所や保健センター（43%）であり、病院や診療所（27%）よりも多かった。参加者の満足度は高く、継続した支援が望まれる。
4. 相談会の参加者数：合計25人。講習会直後の相談は非常に混雑した。別日設定では、全員来談した。
5. 相談内容：受診するべきか、医師との関係性について、家族について、ストレスフルな生活について、尿失禁の手当ての仕方について、落ち込んだ気持ちを分かって欲しいなど。

事業の工夫点

健康教育の開催について市町の広報を利用し、事前申し込みなどは不要として、開催を対象者が参加し易い土・日にし、気軽に参加できるように工夫した。対象者を女性限定としたことで、異性の存在を気にすることなく、より羞恥心が軽減され、参加が助勢された。また、30代の女性（特に出産後の女性も想定）向けに講義中の保育を担保し対象の年齢層を広げた試みであることが好評を買った。

事業の効果についての評価・考察

評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業の効果について検討した。

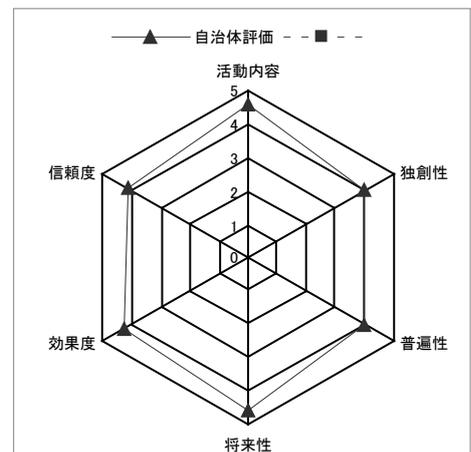
- ①当県では、本事業である女性の尿もれに関する一般向けの健康教育は、過去ほとんど行われていない状態であった。女性の尿もれの症状は、医療の専門機関に行くには躊躇する内容であり、どこまでが病的な範囲なのかも判断できないことが女性一般に有ることは、多くの文献などで指摘されていたが、健康教育などで保健師などが扱うには難しい内容であった。故に、大学医学部の医療専門職者が本事業の企画を行う際に協力を求めた市町保健センターからは新しい健康教育の展開が期待できるということで、保健サービスの新しい側面を拓いたと思われた。結果として、講演会では、両市町とも主催者側の予想よりも多くの参加人数があり、普段保健センターを利用しない方が多数見えて、このテーマに関しての保健ニーズが高いことが示された。以上から、この事業が非常に効果的であったと評価でき、今後の女性の健康づくりへの波及効果は非常に大きく、更なる普及啓発が期待できる。
- ②相談会も予定した回数以上に行うことができ、また、来談者も全員欠席することなくお見えになった。内容も専門機関へのリファーや普段の生活での保健指導、また、保健センターの健康事業への紹介などがなされ、より専門的な保健サービスの充実につながる有効な対策であったことが伺われた。

今後の課題

今まで地域の保健事業ではタブーとされた感のある「尿失禁」を扱うテーマであったが、今回行ってみて、非常にニーズが高いことが確認された。また、多くの女性が人知れず悩んでいることが推測された。是非、今後ともこの事業が何らかの形で継続されることが必要と思われた。

ホームページ	
照会先	国立大学法人三重大学 医学部看護学科地域看護学講座 059-231-5092

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.6	市町で開催があり良いと思う。女性にとって関心のあること。
②独創性	4.0	更年期とも関連があるが、尿失禁に関する事業は自治体ではまだ少ない。
③普遍性	4.0	相談しづらく悩んでいる者は多い。今後展開すべきテーマ。
④将来性	4.6	尿失禁についての知識をもつ保健師は少ないが、保健センターの新たな顧客が発掘された。
⑤効果度	4.3	講演と相談会の二本立ての方法は良いと考える。事業の工夫も見られ有意義で有効な事業であった。
⑥信頼度	4.1	医療機関との連携を重視する事業であった。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性の健康支援対策事業「乳がん検診啓発・ピンクリボン・キャラバン・まつさか」
分野	■啓発活動 ■健康教育 ■健康相談
事業費（千円）	2,000

事業目的

松阪市が実施する女性がん検診の受診者数は年々増加しているものの受診率は低く、一人ひとりの女性が主体的に自らの健康に目を向け日常生活の中で乳がん予防を実践できるよう、市民病院の医師・女性認定技師・放射線技師とともに保健師・地区医師会等でチームを組みお互いの活動を活性化し、乳がんマンモグラフィ検診の受診率の向上を図るための啓発活動、がんについての理解を深めるための重点的な健康教育・健康相談を実施する。

事業対象

三重県松阪市内の女性及びそのパートナーである男性

事業実施体制・展開

- ① 乳がん検診啓発活動を組織化する。本事業の目的・趣旨について事前に関係機関の長を通じて周知し、参画できる内容、活動時期、メンバー、協力団体、媒体等について把握する。
- ② 活動をすすめていく一つのチームとして活動できるように企画調整を担うメンバーを置き、関係機関が連携を図り活動対象、活動内容等実施計画を立てて実施する。
- ③ 乳がん検診を身近に感じ受診行動への意識が高まるように、実際に検診・医療に携わるメンバーでチームを作る。
- ④ チームは、以下の内容を実施する。
 - (a) 概ね小学校区単位の集団を対象に毎月2～3ヶ所ずつ会場を設定し、乳がん検診啓発キャラバン活動を行う。
活動内容（2～3ヶ所×1年間＝30回）市民病院外科医師による乳がんについての基礎知識、市保健部門保健師による乳がん自己検診法の講習会、市民病院女性認定技師によるマンモネットワークへの加入登録のご案内、市民病院診療放射線技師による検査に関するトピックス、予約センター、松阪地区医師会他各メンバーによる乳がん検診の予約、相談。
 - (b) 街頭における市内全域を対象に、ピンクリボン月間に乳がん検診啓発イベントを実施する。（年1回休日）
協力機関を広げ、医師による講演・乳がん啓発バスの設置・マンモモデルを使用した自己検診法の実演と体験会・乳がん検診相談会・乳がん啓発パネル展示・親子で参加できるクイズやお楽しみコーナーの設置
- ⑤ 女性がん検診受診率向上のための啓発・健康教育・健康相談の実施（市内17ヶ所及び他各種保健事業）
- ⑥ 広報誌・ポスター等による啓発の実施（重点時期：ピンクリボン月間と検診期間終了月の1か月前）

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① イベント時アンケート[意識]乳がん自己検診法を知っている 80/122, 自己検診をしている 27/122, 自己検診していないがイベントをきっかけにしようと思った 52/89
- ② 事業を通じて生まれる関係機関数: 前年度 5 → 当該年度 12
- ③ 活動数と参加者数 ◆キャラバン活動は波及効果 4 回の増があり、市内 34 ヶ所で実施、参加人数 520 人
◆乳がん検診啓発イベントを祝日 1 回開催、参加人数 400 人 ◆女性がん検診受診率向上のための啓発・健康教育・健康相談を市内 17 ヶ所で実施、参加人数 1,798 人 ◆広報・ポスター・電子掲示板等による啓発の実施(10月・1月)
- ④ 乳がん検診啓発キャラバン活動への男性の参加者数 男性 43 人 (8.3%)
- ⑤ 乳がんマンモグラフィ検診受診者数(受診率)

	H20 年度 : 2,354 人 (11.7%)	H21 年度 : 3,552 人 (18.4%)	速報値
内訳 無料クーポン券対象受診者数(受診率)	H20 年度 : 380 人 (7.0%)	H21 年度 : 1,433 人 (23.8%)	速報値
対象外 受診者数	H20 年度 : 1,974 人	H21 年度 : 2,119 人 (145 人↑)	
乳がんエコー検診 受診者数(受診率)	H20 年度 : 1,140 人 (6.8%)	H21 年度 : 1,736 人 (10.0%)	速報値

事業の工夫点

これまで、各組織がそれぞれ乳がん検診受診率の向上への取組みを行ってきたが、市の乳がん検診受診率が県下でも低い共通認識の下、市民病院を中心に地区医師会、市保健部門の実際に検診・医療に携わるメンバーでチームができたことと、各組織の関係機関とも繋がりあうことで活性化し、より乳がん検診を身近に感じ受診行動への意識が高まるように企画・実施でき、今後につながる新たな活動が生み出した。

事業の効果についての評価・考察

評価委員会において女性の健康づくりという観点から本事業の効果について検討した。

実際に検診、医療に携わるメンバーでチームを作り啓発できたことは、参加者が検診をより身近に感じることができるとともに、提供側も参加者の声や思いを直接聴く機会となった。波及効果として参加者が受診行動を起こすことへの意識づくりの担い手となったり、参加者からキャラバン活動の依頼があり、当初計画していた回数よりも多く実施することができた。また、啓発スタッフに男性がいることで、パートナーである男性も一緒に参加しやすく、検診の大切さを伝えることで、男性にも乳がんがあるのか？と関心が高まったり、家族など女性が乳がん検診を受けるよう後押しへの理解を得ることができたと考察する。

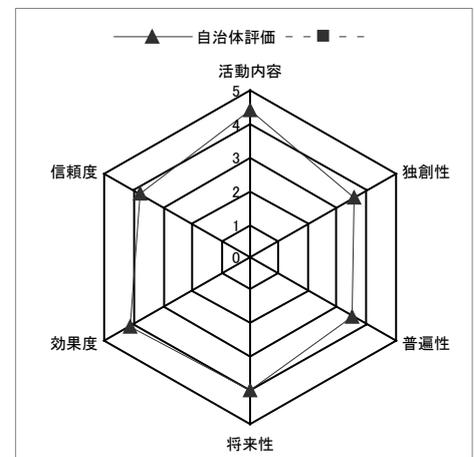
当市の乳がんマンモグラフィ検診受診率は昨年と比べ、6.7%向上した。検診受診率向上のための啓発を、より効果的に実施するためには年齢層に合わせた啓発が大切である。特に若年層への啓発を積極的にすることで、自らの健康に目を向け日常生活の中で、継続して検診を受けていくという受診行動が受診率の向上につながっていくと考察する。今回の住宅展示場でのイベントは30～39歳の女性を中心に啓発ができ、松阪市が実施している乳がんエコー検診の受診者数も延びており、40歳からのマンモグラフィ検診への継続を期待でき効果があった。

今後の課題

乳がん検診をみんなが受けているよと家庭・地域・職域において気軽に声をかけあい話題にのぼるような意識づくりができるよう、関係機関だけでなく市民も巻き込んだムーブメントづくりが大切である。そして早期発見・早期治療により大切な命を守り、悲しみの連鎖を生まないよう、パートナーである男性も含めてどうしたら女性に対して積極的な参加を促せるのか検討する必要がある。

ホームページ	http://www.city.matsusaka.mie.jp/kenkou/
照会先	三重県松阪市保健部健康推進課 TEL 0598-23-1364 FAX 0598-26-4951

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.4	保健センターが実施主体で、街頭での検診啓発イベントの実施など地域密着度は高い。
②独創性	3.6	事業を行うにあたり組織化を図り行っている。NPO 三重乳がん検診ネットワークともリンクできている
③普遍性	3.5	市長が受診率向上を公言していることもあり取組みの良いきっかけになった。
④将来性	4.0	早期発見することによる医療費の削減効果は高く取組みの必要性はあると考える。
⑤効果度	4.1	各関係組織から検診・医療に携わるメンバーでチームができた点は評価できる。受診率も向上した。
⑥信頼度	3.8	数値の信頼度は高いと考える。



乳がん検診啓発イベント「乳がん検診啓発ピンクリボン・プラザ・まつさか」の開催



乳がん検診啓発ピンクリボン・キャラバン・まつさか

